

アジア・アフリカ ラテンアメリカ

今月の読み物	■2面 沖縄選挙関連
	■3面 AAPSOに参加して
	■4～5面 世界はいま！7
	■6面 全国縦断学習講演会
	■7面 列島AALA
	■8面 赤旗まつり、私とAALA

日本アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会機関紙

2014年12月1日 No.653

沖縄県知事選挙

安倍政権に厳しい審判



新基地建設反対の翁長雄志氏圧勝

(左)万歳をする沖縄のみなさん(右)決意を述べる翁長氏(沖縄県平和委員会提供)

追いつめられ 悪政進めるための党利・党略選挙

次は 総選挙で 安倍政権 暴走阻止

安倍内閣は発足から2年、集団的自衛権行使容認、消費税8%強行、労働条件や社会保障の改悪、原発再稼働の企て、沖縄の新基地建設などを企図した暴走を重ね、あげくのはてに古い金権体質が露呈しました。今回の解散・総選挙は、国民の願いや世界の流れに逆らう安倍政権の暴走政治が、国民の運動と内外の世論によって追いつめ

られた結果であり、厳しい審判を下す絶好の機会です。

安倍政権は策略を弄して選挙に勝利し、「国民の信を得た」として一連の悪政を強行する狙いがあります。創意を生かし全力でたたかい、安倍政権の暴走を阻止し、憲法が輝く日本と平和・協力・繁栄の東アジア共同体実現の展望をひらきましょう。

国際署名スタート

平和・協力・繁栄の「東アジア共同体」をめざして



赤旗まつりの会場で若者たちが訴える (11月3日)

沖縄県知事選、那覇市長選、那覇市・名護市の県議補選で

**新基地 NO！
民意が沸騰**

新基地反対の候補が当選

沖縄の未来、日本の進路がかかった 歴史的選挙

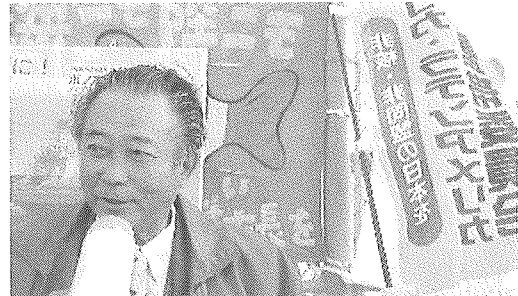
11月16日投票の沖縄知事選挙は、オスプレイ配備撤回、普天間基地閉鎖・撤去、県内移設断念を求める「建白書」実現か、県民を裏切って新基地建設を進めるのかの対決でした。

翁長候補是那覇市長として「建白書」の取りまとめの要になり奮闘し、「建白書」実現を高く掲げ、保守・革新の枠組みを超えて「オール沖縄」でたたかいました。政策も選挙の枠組みも、歴史を動かすものでした。

激烈な総力戦を オール沖縄・平和勢力で勝ち抜く

選挙戦は激烈な総力戦となりました。相手陣営は、反共とデマ宣伝、争点隠しに終始。翁長陣営は堂々と政策を前面に出し、「オール沖縄」「オール平和勢力」でがんばり勝利しました。

名護市では知事選挙の得票で翁長氏が仲井真氏を大きくリードし、県議補選では猛烈な反共攻撃を打ち破り、日本共産党前市議の具志堅徹氏が勝利。那覇市の県議補選でも日本共産党前市議の比嘉瑞己氏が当選。この結果はこれからの新基地建設反対運動と政治に大きな展望をひらくものになります。



日本AALAの沖縄ツアーで新基地について説明する具志堅氏（今年1月）

日本AALAの各組織と会員も奮闘

この選挙には、全国の平和勢力がさまざまなかたちで奮闘しました。日本AALAの本部や地方組織は、現地に応援にかけつけたりカンパや激励を送るなど、自主性と創意を生かしてがんばり勝利に貢献しました。

総選挙と一斉地方選挙 沖縄につづき安倍政権の暴走阻止を

今回の勝利は、「軍事同盟で平和を」とうそぶく勢力、とくに安倍政権に大きな打撃を与えました。この勝利を文字どおり「建白書」の実現に生かすとともに、総選挙や一斉地方選挙で安倍内閣の憲法改悪、日米安保強化路線など安倍内閣の暴走を阻止しましょう。

応援に参加して

街ゆく人の反応に励まされ

11月5日から7日まで、沖縄県知事選挙候補オナガ雄志氏の勝利支援のため、那覇市に入った。

沖縄統一連選対事務所は全国からの支援者の熱気で溢れていた。激布とカンパを渡して、激励のあいさつをして、すぐに宣伝カーで街に出た。「県民の8割が普天間基地の閉鎖・撤去と辺野古の埋め立て中止を求めている」「仲井眞現知事の裏切り行為は許せない」「オナガ県知事実現で沖縄の心を示そう」などと宣伝した。宣伝カーからの訴えに対して、街ゆく人々からの激励の手振り

や多く、励まされる。

ハンドメイクでの宣伝や法定ビラを各戸に届ける活動もした。「現知事の裏切りは許せない。基地はもういらぬ」「相手側の汚いビラがポストに入っていた。がんばってください」などの有権者の多くが支持を約束してくれた。



激布を瀬長沖縄統一連選対事務局長に贈る

(日本AALA 常任理事 松井幸博)

AAPSO 第9回大会に参加して

日本 AALA の 「東アジアの平和共同体」構想に理解

日本 AALA 常任理事
田中靖宏

大会会場風景



スリランカ委員会の2人と

アジア・アフリカ人民連帯機構（AAPSO）第9回大会が10月18～20日、スリランカの最大都市コロンボでひらかれ、日本 AALA の代表として出席しました。

大会は幸野堯常任理事が出席したインドのハイデラバードでの前大会以来6年ぶり、21カ国の国際連帯組織から60人あまりの代表が参加しました。

スリランカは北海道より少し小さい島で人口は2000万人。26年間つづいた政府と少数派タミル人武装勢力（タミル・イーラム解放のトラ）との武力紛争は2009年に終結し、共産党も参加する統一人民自由連合（UPFA）政権の下で、急速な経済回復が進み、町には活気がありました。

平和の伝統をとりにどす

バンドン会議を準備した1954年のコロンボ会議の開催地であり、1975年の第5回非同盟首脳会議の主催国でもあります。政治の安定化で人びとはかつての平和運動の伝統と誇りを取り戻しているように感じました。

AAPSO はバンドン会議や非同盟運動と平行して、政府ではなく人民レベルの組織（NGO）が参加する国際連帯組織として1958

年に創立されました。各地の民族解放運動や人種差別一掃、パレスチナ人民支援、さらに沖縄の本土復帰運動などに役割を果たしました。一方で強い影響を受けたソ連が崩壊したあと、前回まで20年間も大会がひらかれない状態がづきました。

このなかで日本 AALA が自主的な人民連帯組織として外国軍事基地撤去や核兵器廃絶の運動、アパルトヘイト反対や中南米の人民支援などで果たしてきた役割はよく知られていると感じました。

大会では、AAPSO のヌリ書記長はじめ多くの人たちから連帯のあいさつと秋庭稔男代表理事へのお見舞いの言葉を託されました。

テロとのたたかいが焦点

大会の論議では、新興国や途上国が経済でも政治でも国際的に大きな役割を果たすようになり世界の多極化が進んでいること、それらの諸国が非同盟諸国運動に参加し軍事同盟や核兵器によらない平和の国際秩序を目指しているなど積極的な変化が確認されました。

一方、リーマン・ショック後の経済恐慌で労働人民が苦難をしいられ、各地で政治の不安定化と混乱を招き、とりわけ深刻な問題としてテロの拡大が取り上げられま

した。

強調されたのは、民族や宗教、文化や伝統の違いといった各国内にある多様な要素が、過激派によって対立と憎悪の拡大に利用され、この背後には地域への介入や影響力の拡大を狙う大国や帝国主義の戦略があるという評価でした。各国の運動がその狙いを見抜き、国の統一と独立とともに多様性の尊重と共存の理念を守って干渉に反対する国民的な運動を広げることの重要性が確認されました。

日本 AALA の活動を紹介

私は沖縄の新基地建設や集団自衛権の行使容認に反対する活動と、日本 AALA がとりくんでいる東アジアへ平和の共同体を目指す運動、来年のヒロシマ・ナガサキ70周年とNPT再検討会議にむけたとりくみを紹介しました。

平和共同体は、米国の軍事強化や北東アジアの緊張にたいする対案として重要な運動だと理解され、核兵器廃絶は AAPSO 運動の原点として積極的にとりくんでいこうと賛同を得ました。

いま世界は！ 7 中南米一連の大統領選挙はなにを示したか

かつてアメリカの裏庭と言われた中南米諸国は、アメリカ依存や新自由主義から次々に脱却。また、中南米カリブ共同体の設立など世界の注目を集めています。その中南米では今年、7カ国で大統領選挙がおこなわれました。各国とも選挙の最大の争点は、新自由主義政策に基づく社会経済状況をどのように評価するかということでした。その状況を国別に、新藤通弘日本AALA国際委員会責任者に解説していただきました。

エルサルバドル

猛烈な批判キャンペーンのなか 左翼のセレン候補が僅差で勝利

エルサルバドル（大統領職は任期5年、連続再選禁止）では、左翼政党的ファラブンド・マルティ民族解放戦線（FMLN）政権のもとで、貧困削減、格差減少、社会福祉の改善政策が進められ、それぞれの社会指数が改善しています。

しかし一方で、近年経済成長が停滞しています。3月の決選投票では、左翼のFMLNのセレン候補が

50.11%を獲得し、49.89%を獲得した右翼の民族主義共和同盟（ARENA）のノルマン・キハーノ候補を僅差で打ち破りました。米国の国務省の高官連やARENA陣営が、FMLN政権下の経済停滞、キューバ、ベネズエラとの密接な関係、米国からの家族送金（GDPの15%を占める）の先行き不安となるなど、猛烈な批判キャンペーンを展開した結果でした。

コスタリカ

新自由主義批判のソリス候補が、圧勝

コスタリカ（任期4年、8年後の再選可能）では、4月の決選投票で新自由主義政策を批判する市民行動党（PAC）のルイス・ギジェルモ・ソリス候補が、左派の拡大戦線（FA）の支持も受け77%を、中道右派の国民解放党（PLN）のジョ

ニー・アラヤ候補は22.1%を獲得し、ソリス候補の圧勝でした。

2006年からアリアス、チンチージャとつづいた国民解放党の新自由主義政策、深刻な汚職に国民が大きく失望している状況がありました。

パナマ

右派の民主変革党とたもとを分かち 米国からの自立を主張したバレーラ政権が誕生

パナマ（任期5年、連続再選禁止）では、5月の今回の選挙で、右

派の民主変革党（CD）との連立政権からたもとを分かった中道右派のバ



左に振りつつける振り子、新自由主義への拒否反応

大統領選で勝利し、万歳を叫ぶブラジルのルセフ大統領

ナマ主義党（PAN）のバレーラ候補が39.1%、CDのアリアス候補が31.4%獲得し、バレーラ政権が成立しました。

バレーラ大統領は選挙期間中、新自由主義政策を批判し、米国から自

立した外交政策を主張し、ベネズエラとの国交の回復、2015年度米州首脳会議へのキューバの初参加を主張しました。選挙結果は、反新自由主義、対米自立が広範な国民の世論であることを示しました。

コロンビア

対話で反政府武装勢力と 和平交渉を進めるサントス氏が再選

コロンビア（任期4年、連続2期まで可能）では、6月の決選投票は、「内戦の戦争継続か和平か」を巡ってたたかわれ、対話により国内の反政府武装勢力との和平交渉を進める自由党・急進変革党の「国民団結」連立戦線（UN）、穏健保守派のファン・マヌエル・サントス大統領が

51.0%、極右のウリベ元大統領が推す、右翼の民主主義センター（CD）のオスカル・スルAGA候補が45.0%を獲得し、サントス政権が継続されました。サントス政権は、国内でも貧困対策にも目を向けつつ、隣国のベネズエラ、エクアドルの左派政権とも良好な関係を目指しています。

ブラジル

新自由主義政策を掲げる候補を破り 左派のルセフ氏補が再選

ブラジル（任期4年、連続2期まで可能）では、10月の決選投票で、左派の労働党（PT）のジルマ・ルセフ大統領が51.6%、中道のブラジ

ル社会民主党（PSDB）のアセシオ・ネベス候補が48.4%獲得し、ルセフ大統領が再選されました。ルセフ大統領が選挙戦で苦戦した背景には、

ボリビア

貧困層の改善、格差是正、 対米自立などを進めるモラーレス氏が圧勝

ボリビア（任期5年、1回限り連続再選可能）では、10月、左派の社会主義運動（MAS）のエボ・モラーレス大統領が61%、中道右派の民主団結戦線（UN）のサムエル・メディーナ候補が24.5%を獲得し、モラーレ

には至りませんでした。貧困家庭支援助当の「ボルサ・ファミリア」などにより、4000万人の貧困人口を削減した社会政策、失業率を大幅に低下させたこと、飢餓問題を大幅に改善したことなどの実績と、対米自立の外交政策を過半数の国民は支持したのです。

ス大統領が圧勝しました。モラーレス大統領の圧勝の背景には、近年経済が好調なこと、反新自由主義政策に基づく貧困層の抜本的改善、所得格差の解消、資源の主権の確立、対米自立の外交政策があります。

ウルグアイ

11月30日に決選投票 左派のバスケス氏が優位に立つ

ウルグアイ（任期5年、連続再選禁止）では、10月国民的人気のあった左派の統一戦線（社会党、共産党など参加）、拡大戦線（FA）のホセ・ムヒカ大統領に代わって元大統領のタバレ・バスケス候補が47%、中道右派の国民党（PN）のルイス・ラカージェ・ポウ候補が30.9%、右派のコロラド党のペドロ・ボルダベ

リ候補が12.9%獲得し、11月30日に上位2者で決選投票がおこなわれます。

10年にわたる拡大戦線のもとで、反新自由主義政策によって社会改革が進められ、貧困問題、失業問題で大きな改善がみられています。決選投票での拡大戦線の優位は揺らぎようありません。

新自由主義に未来がないことを発信

80年代、90年代と、中南米では新自由主義政策が荒れ狂い、「新自由主義の実験場」と言われ、経済は後退し、貧困化と所得格差の拡大が

深刻になりました。今年の一連の大統領選挙は、新自由主義政策には未来がないことを世界に発信するものとなりました。

「世界の動きにわくわくする」 「平和の共同体づくりに感動した」

キューバ大使を招いて開催

10月25日、長野市生涯学習センターにて、北信越ブロック学習講演会「平和の共同体こそ、世界の流れ」が開催され、長野、新潟、富山、福井各県 AALA 会員ほか約 100 人が参加しました。

はじめにマルコス・ロドリゲス駐日キューバ共和国大使が「中南米カリブ共同体 (CELAC) の現状と展望」について講演し、そのあと日本 AALA 国際委員会責任者の新藤通弘さんが「北東アジアにおける平和の共同体をめざして」をテーマに講演しました。

大使は、スペイン植民地からの中南米諸国独立闘争の歴史をふまえ、CELAC が設立された経緯と現状と今後の可能性について語りました。新藤さんは、ASEAN の経験をふまえ、現在の北東アジアにおける平和の共同体構築の可能性について述べました。



会場風景

閉会あいさつで長野県 AALA 毛利理事長は、「中南米カリブにも東アジアの動きにも、現実政治が動いているというわくわくするものがある。北東アジアでも現実政治を動かす共同体構想を実現しよう」と訴えました。参加者からは、「各国の自主性を尊重した上で多様性を認め、平和の共同体づくりにとりくんでいる姿にとても感動した」という感想が寄せられ、充実した講演会となりました。
(中島裕治)

他団体の人も誘って参加を

全国縦断学習講演会 1月の予定

中国
ブロック

1/17 土
13:00 ~

岡山国際交流センター
(岡山駅西口徒歩5分)

参加費 1,000 円

■第1部
ASEAN の現状と展望、そしてラオスは今

講師
ラオス人民民主共和国駐日全権大使
ケントン・ヌアンタシン氏

■第2部
東アジア平和の共同体をめざして

講師
日本 AALA 教宣委員会責任者
田中靖宏

四国
ブロック

1/24 土
13:00 ~

愛媛大学共通講義棟
2階24番教室

参加費 一般 800 円、学生 500 円

■第1部
ベネズエラ・ボリバル共和国の現状と
中南米・カリブ共同体づくりの展望

講師
ベネズエラ・ボリバル共和国駐日全権大使
セイコウ・イシカワ氏

■第2部
北東アジア平和の共同体をめざして

講師
日本 AALA 国際委員会責任者
新藤通弘

■ 12/7 近畿ブロックの会場案内

京都鴨沂会館新館2階ホール (京都市上京区河原町荒神口西入る)



北海道

たたかひの展望示した
講演会

10月13日に北海道AALA創立50周年記念講演会「激動する世界と日本—安倍政権の暴走、力をあわせてストップを！—」を開催しました。講演会には300人以上が駆けつけ、講師の日本共産党副委員長緒方靖夫さんの講演に聞き入りました。

緒方さんは「いま世界のすべての国が国際政治の表舞台に立ち、NGOが活躍する時代になった。中南米やASEAN諸国が新自由主義反対、紛争の平和的解決、自主的な国づくりを進めている」と世界の大きな変化を述べました。そのなかでの米中、日中、日米関係にも触れながら、世界が安倍政権をどう見ているかを具体的に語り、「安倍政権のアキレス腱は対外関係と暮らしの問題」だと強調しました。そして「イラク戦争反対で、フランスが大きく権威を高めたように、日本が国際社会に対し憲法を貫けばもっと大きな信頼が得られる。これが最大の安全保障だ。したがって私たちは、憲法を生かしアジアと世界の働きかけよう。憲法は世界へのパスポートだ」と呼びかけました。

「目からウロコ」「勇気がわいてきた」「AALAらしい講演会だった」など積極的な感想が、多数寄せられました。次の半世紀のたたかひへの展望がわくすばらしい講演会でした。

会場で沖縄知事選挙支援カンパを訴えたところ、約8万円が集まりました。これとは別に、会員か



ら郵便振替などで寄せられた分と合わせ16万円となり、集まったカンパは、片岡事務局長が10月19日に沖縄統一連の事務所を訪れ、手渡しました。

(伊藤恵夫)

大阪

第52回総会開催

10月9日大阪AALAは第52回定期総会を約60人の会員の参加で開催しました。

議案では、昨年度、役員・事務局体制の改善・整備と機関紙発行を重視した編集委員会が確立した



山形

今年度のテーマは
「中国・韓国」

山形支部の今年度のテーマは、「中国・韓国」。4月には「海域アジア史から尖閣諸島問題を考える」と題して、かつて島はその海域に暮らす人々の目印としての役割を果たし共有の財産であったこと、現在の領土問題の背景には「先占の法理」があることなど、歴史的な事実を踏まえて解決の道を迫る有意義な話を聞きました。

また、韓国をテーマにした問題では、10月に「韓国内における日本軍『慰安婦』をめぐる動向」と題して話を聞きました。1人の勇気あるハルモニの告発からはじまった訴えは、世界各地にいる戦時暴力で苦しむ被害者を勇気づけ高校生のアイデアからはじまった「ナビ(蝶々)運

動」が文化人も巻き込み広がっていることなどが紹介されました。「ナビ」とは、日本軍「慰安婦」被害者たちと共にすべての女性たちが差別や抑圧、暴力から解放され、自由に羽ばたくことを念願する意味を込めたものとのこと。「日本軍のいるところに被害者がいる」という辛い過去の事実には私たちはどう向き合うべきか、本当の意味での名誉回復のためにはなにをなすべきか、深く考えさせられる話でした。

総会討論では参加者から「若い世代への引き継ぎを」「世界を知り元気が出ると拡大で成果がある」「人権問題で国際救援活動にも力を注ごう」「機関紙の充実をはかる」「日本軍『慰安婦』問題のとりくみ強化」「沖縄知事選が重要な局面」などの発言があり、元気の出る総会となりました。

役員体制では、新事務局長に和田鈴江さんを選出しました。

総会恒例の記念講演はジャーナリストの西谷文和さんを講師に、「『イスラム国』の正体を暴いてアラブを見る…『アラブの春』は幻想だったのか」と題しておこなわれました。

(浜辺友三郎)

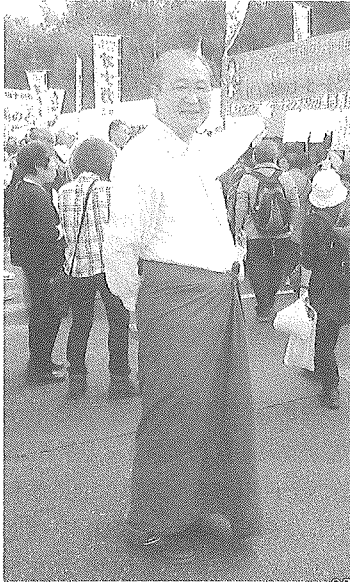


ベトナム訪問報告会
で合唱

ベトナム訪問報告会
で合唱

集団的自衛権行使容認反対の県議会への請願や、福島原発問題にもとりくんでいます。(事務局 鈴木理枝子)

ミャンマーの衣装で呼込み



赤旗まつり

各地のAALA 会員に支えられ

コーヒーやラム酒の販売、国際連帯

「国際署名」を実施、5人の会員拡大も

日本AALAは11月1日から3日まで開催された「赤旗まつり」に、二張りのテントで出店しました。コーヒー、ラム酒のダイキリと瓶物、チョコレート、ASEANの本などの販売、そして日本軍「慰安婦」のDVDの上映や販売にも協力しました。

連日多くの方が協力してくださいました。埼玉、東京、千葉の方々はもちろん、朝4時起きで日野川理事長など栃木県AALAの3人、群馬の浅尾さんなども終日汗を流してくださいました。闘病中の秋庭代表理事の息子さんとお孫さんも3日間大奮闘をしてくださいました。

また、北海道、高知、宮崎など遠方の会員をはじめ、多くの会員や役員の方が顔を見せてくださり、会員同士の交流ができました。

キューバ大使のご夫妻や参事官とお母さん、ベネズエラの大使、キューバやチリの若者なども来店し、連帯ができました。隣が沖縄県のテントだったので、お互いエールを送り合い、楽しく有意義な3日間でした。

みなさんのご協力でチョコレートもラム酒も完売し、国際シンポジウムの資金に貢献できました。

さらに新会員を5人、読者1人を迎えました。

キューバ大使夫妻を囲んで



好評のコーヒー



わたしと 67

AALA

東京AALA理事長
吉田万三

日本AALAを多くの人に知ってもらうために

今年度から東京AALAの理事長を務めることになった吉田万三です。

私は足立区長時代をはさんで、ずっと民医連で働き、3月に全日本民医連の副会長を退任したばかりですが、引きつづき医療現場で働いています。

民医連では、これまでも核兵器廃絶に向けた世界の医師たちとの協力や韓国の病院・医療団体との交流を進めてきましたが、いまの時代だからこそ草の根からの国際交流と相互理解が大切だと感じてきました。

そこに近来まれにみる極右安倍政権の出現と暴走ですから、その思いはなおさらです。

冷戦が終わって四半世紀になりま

すが、世界でも日本でも、「移民排斥」「ヘイトスピーチ」など危険なナショナリズムの台頭は注意すべき特徴です。

日本AALAでは、さまざまな国際紛争を戦争にはさせないとりくみを進めてきたASEANの努力から大いに学びながら、来年に向けて私たちの東アジアでも平和の共同体をめざしていくための行動を開始しました。

もっともっと多くの人に日本AALAを知ってもらえるように、みなさんと力を合わせてがんばる決意です。

編集・発行

日本アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会

JAPAN ASIA AFRICA LATIN AMERICA SOLIDARITY COMMITTEE



住所 〒160-0022 東京都新宿区新宿 2-11-7 第33 宮庭ビル 4階
 電話：03 (5363) 3470 HomePage <http://www.japan-aala.org/>
 FAX：03 (3357) 6255 E-mail：info@japan-aala.org
 振替 00110-6-72434 毎月1回1日発行1部150円（送料62円）